

【協働・行財政・人権部会】庁内・審議会合同部会 議事録（要旨）

開催日・出席者等

開 催 日 時 令和7年10月7日（火） 11時00分から12時10分まで
場 所 山ノ内町文化センター 第2会議室
出 席 者 審議会部会員4名、庁内部会員5名、事務局2名 計11名

協議状況（会議事項）

第1節 みんなが活躍する協働の郷土づくり

1. コミュニティ

【審議会1】

社協では10月1日から3年間、町と協働して休眠預金を活用して国の定めるところにより社会の課題解決のために事業を行う。町で暮らす外国人が増加する中で、日本人と分け隔てなく暮らせる多文化共生のために、例えば情報発信を多言語化する等事業を行っていききたい。社協のみでなく町や企業や各団体の協力を得ながら進めたいのでよろしくお願いしたい。

【審議会2】

人口ビジョンで令和2年から令和7年にかけてタイ人の数はあまり増えていないがベトナム人や中国人の数はすごく伸びている。その分析や聞き取りはしているか。

【庁内2-1】

住民基本台帳から数値として抽出しているので個別の調査はしていない。

【審議会2-2】

増加や停滞の理由を分析していかなければいけないと思う。宗教等の知識もない中で今後外国人人口は増加し労働力という意味では欠かせなくなるので、しっかりとしたコミュニティづくりがまず大切である。

【審議会3】

若年層の意見を述べる場や担い手づくりについて具体的な取り組み状況について聞きたい。10年後、20年後の施策を考えると難しいと感じるが、若年世代のコミュニティや意見を述べる機会をもっと増やしていくのか。

【庁内3】

昨年「町長と語る会」を実施し、今まで機会のなかった起業者や若い方に町長や町に意見を述べていただく機会を設けることができた。また、こどもの意見を聞くこども会議を開催した。今までは区長会で年配者の意見を聞くことが多かったが、今後情報ツールを活用しな

がら帰ってきたり移住してきた若い世代の意見を意識して聞くようにしていきたい。

【庁内 3-2】

今回総合計画策定にかかる若者ミライ会議を開催し、今後もやっていきたい。若い世代のほうで情報ツールに慣れていることもあるので活用して情報を収集していきたい。

【審議会 4】

以前にきちんとしたビザを持っておらず飲食店街で働く方がいて、きちんとしたほうが良いといったところ、行政は触らないほうが良いということだった。2027年には技能実習の制度が変わり、選挙結果を見ても外国人に厳しい状況になることが予想される中で、逮捕者が出たらどうなるかと思うし、負い目がある外国人はコミュニティに入ってくるの思うので入りやすい仕組みづくりを進めてほしい。

【庁内 4】

課題としては認識するが、法律に則って動かないといけない部分もあるので直接介入するのは厳しい。ただ、違法の状態で過ごしては助けてほしいときにそう言えないことも指摘のとおりなので、解消していくよう色々な機関と協力しながら取り組みたい。

【審議会 4-2】

白馬で任意団体を作った最初の目的は、双方で情報を取得したいという理由だった。外から見るとうまくいっている部分とそうでない部分があるが、山ノ内町でも町に合うように任意団体も一つの選択として、情報をしっかり交換・伝達できる場をつくっていかないとけない。

2. 町民参加

【審議会 5】

知り合いの男性に話を聞くと女性と知り合う機会がないという。これは晩婚や未婚につながる。大きいイベントのみならず細かいそば祭りのようなイベントも発信していくべき。お年寄りに運動するイベントを発信しても行きにくいこともあり、情報自体が避けられるようになってしまう。イベントの企画や情報発信は外国人のコミュニティ参入や若い世代の出会い、ひいては人口減少対策において重要であるので、今後具体的に進めていく必要がある。

【庁内 5】

先ほど社協の事業の紹介もあったように、これから基礎資料収集のためのアンケートを実施する。異性との出会いの場については社協で結婚相談所を開設しており町としても協力して進めたい。

【庁内 5-2】

情報発信について、情報があふれてしまっているため確実に効果的に伝える方法を考えな

いといけない。また、情報が欲しい人が情報を取りに来れるような仕組みも必要と思うので、ツールを含め広報のあり方について具体的な取り組みを考えていきたい。

【審議会 5-2】

町からの発信にとらわれず、多文化の方からの発信を受け取る体制も大事だと思う。一般的に食文化が受け入れられやすく、例えば様々な国が土地の食を提供するようなイベントの開催は他文化交流のきっかけになると思う。

【審議会 5-3】

社協で先日開催した飲食ブースやステージ発表で構成するふれあい広場というイベントに、初めて外国人としてネパール人が出店した。外国の方はボランティア精神が旺盛でほかの国の方も出店を希望されていた。今後も助成金を活用し開催していく。

【審議会 5-4】

多文化共生は押し付けのような雰囲気にならねばならず、社協のイベントや山ノ内どんどんに参画していただくような方向も面白いと思うので検討して進めてほしい。

【審議会 5-5】

夏に温泉場の夏祭りの片づけ時に流しそうめんやスイカを見て外国人スタッフが楽しそうにしており、コミュニケーションをとるのは町なのか観光局なのかという話になった。社協の取り組みについても話を聞きたい。外国人の定住増加や災害時対応にも観光局としてできることを考えていきたい。

【審議会 6】

外国人にとって宗教に対する意識は非常に強い。お互いの建国記念日を祝いあうようなことがきっかけで良い関係になってくる。システムを構築したうえで両方の発信を知ることが大切である。

第2節 健全な財政運営と確実な行政経営の郷土づくり

2. 行財政運営

【審議会 7】

国のほうでも選択と集中ということが言われているが、選択されたかった部分はどのような心配である。そういったところはどうフォローしていくか。

【庁内 7】

限られた財源の中で計画的に必要な事業を進めていく必要があるため、毎年実施計画を策定し必要性や緊急性を協議しながら進めている。選択できなかった事業は必要ないということではなく、優先順位をつけて考えている。

第3節 人と人が尊重し合う絆の郷土づくり

2. 男女共同参画社会

【審議会 8】

審議会における女性委員の割合を上げていくために何をするか。

【庁内 8】

それぞれの審議会を担当する部署に女性委員を増やしていただくようお願いする。推薦もあるができる方にやっていただきたいので、女性が出てきていただきやすい取り組みを町全体で考えていく方向である。

【審議会 9】

女性男性にかかわらずということは共感できる。女性が出産した場合、幼児を預けられるところを作らないと時間が空いてしまってそのあと入りにくく進出しにくくなってしまうため、その辺の配慮をお願いしたい。

【庁内 9】

他部署と協力しながら政策的に進めていく。

以上